

定住自立圏構想実現に向け

中心市宣言



定例市議会で圏域の中心市として取り組むことを宣言する平山市長

12月3日に開会した平成27年第5回定例市議会で、平山市長は、当市とつがる市、鱈ヶ沢町、深浦町、鶴田町、中泊町の五所川原圏域2市4町による定住自立圏構想の実現に向け、中心市として取り組んでいくことを宣言しました。

2市4町は、すでに広域連合や一部事務組合により、医療、消防などの様々な分野で連携しています。また、通勤や通学、通院、買物など圏域住民の日常生活の面でも、強く結びついています。

宣言の中で平山市長は「これまでも増して連携と協力を尊重し、圏域全体の魅力を高め、定住人口、交流人口の維持・拡大に向けた取組が重要であるとし、人口減少時代に向き合いながら、圏域全体の住民が安全安心に暮らすことができるよう、

定住自立圏の中心市として取り組んでいく」と述べました。

今回の宣言に先立ち、11月16日に開催された2市4町の市町長会議において、人口減少と急速な少子高齢化の問題、圏域住民の結びつきがあることを共通認識し、各自自治体の持つ魅力を生かし、協力し合うことを確認しています。

今後は、当市と関係市町がそれぞれの議会の議決を経たのち、構想実現に必要な協定を締結します。協定締結後は、取組内容に応じた関係者による懇談会を開催し、圏域の将来像や推進する具体的取組についての意見を集約した「共生ビジョン」を平成28年度中に策定して、圏域住民が安全安心に生活できるよう取組を進めます。

問：企画課 内線2152

市民参加のまちづくりへ

市長へ市民討議会報告書を提出

12月1日、五所川原青年会議所の皆さんが市長を訪問し、今年度の五所川原市民討議会の報告書を手渡しました。

市民討議会は、市民参加のまちづくりを促進するために青年会議所と市の協働により開催しているもので、4年目となる今年度は、7月11日、市民学習情報センターで35名の市民の参加を待て行われました。

報告書は「ともに語ろう、ふるさとの未来を」五所川原市総合計画重点プロジェクトを考える」をテーマに、幅広い世代の市民が急速に進行する人口減少問題について意見を出し合い、人口減少時代におけるまちづくりの方向性や

取組を取りまとめたものとなっています。討議結果については、今後の市政運営に対する市民意見として、事業立案に反映させ、市政への市民参画を推進することとしています。

報告書を受け取った市長は「討議会に幅広い年代の方が参加してくださることを嬉しく思います。今後も市民主体による積極的な活動に期待しています。青年会議所の皆さんには引き続き地域の活性化に向け、協力をお願いします」と話しました。

報告書は、市HP、図書館または市役所、各総合支所の行政資料スペースで閲覧ができます。

問：企画課 2154



市長へ報告書を提出した青年会議所の皆さん

「五所川原市プレミアム商品券」 使用期限にご注意ください！

平成27年7月1日(水)から販売した「五所川原市プレミアム商品券」の使用期限は、

平成28年1月11日(月)です。

使用期限の過ぎた商品券の使用および払い戻しは一切出来ませんので、お手持ちの商品券を確認し、必ず期限までにお使いください。

問…商工労政課 内線2552